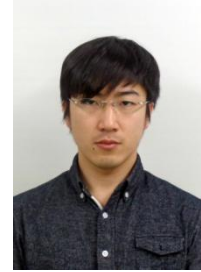


国立病院機構和歌山病院での研修を終えて



村田 顕優

今回、呼吸器内科のポリクリの一環として、国立病院機構和歌山病院で2月7日から8日にかけて実習させていただきました。ここでは大きく「結核」と「レントゲンの正常構造」のふたつのテーマについて学びました。

駿田副院長には結核についてのセミナーをしていただいた後、結核病棟を紹介していただきました。この病院では和歌山県立医科大学附属病院にはない結核病棟があり、実際にN95マスクをつけて行き、陰圧・陽圧換気や風のカーテンを体験しました。また、入院患者に対するDOTS（直接服薬確認療法）を見学しました。担当の看護師さんが患者さん本人と服薬する錠剤の個数を確認していて、服薬したことを確認するための手帳も見せていただきました。

南方院長にはレントゲンの読影法について教えていただきました。正常では何が見えるのか、それも記憶しようとするのではなく、考えて覚えることが大事だと教えていただきました。今まではなんとなく見ていたレントゲンですが、どこに異常所見があるかが読み取れるようになると思いました。また、初日の晩にご飯に連れて行ってもらった時にも、これからの医療について話していただき、学ぶことが多くありました。

2日という短い間でしたが、大変意義のある実習になりました。忙しい中対応していただいた先生方や職員の方々に心から感謝しています。ありがとうございました。